



女性のあらゆる悩みに対応し 個別化された先進的な医療を提供

産科婦人科は女性診療科であり、各分野の専門医が女性の生涯にわたるあらゆる悩みに丁寧に対応する。婦人科腫瘍分野、周産期医療分野、生殖医療分野という大きく3つの専門領域がある。近年、思春期や更年期の諸問題を含む女性のヘルスケア分野も重視し、女性健康外来も設けている。私たちは「同じ疾患であってもその病状は患者さん一人ひとりで異なる」ことを重視し、徹底したカンファレンスにより個別化された治療を提案する。さらに、患者さんの要望や社会的背景を考慮し、十分なインフォームド・コンセントを得て治療を行う。

特に、がん診断では婦人科腫瘍に詳しい病理医との顕微鏡カンファレンス(2回/週)、放射線科医との画像カンファレンス(1回/週)を行い、正確な病態診断を行う。がん治療では、近年、妊孕能温存希望の患者さんが多く、可能な限りその期待に応える。また進行・再発がんでは各診療科の協力を得て広範囲の根治的手術を行い、またQOLを重視した化学療法や放射線療法を行う。なお、周産期医療および生殖医療については、57ページの周産母子診療部を参照されたい。

代表的診療対象疾患

子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、良性卵巣腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、絨毛性疾患、外陰がん、膣がん、卵管がん、腹膜がん、子宮内膜症、子宮腺筋症、性感症、付属器炎、骨盤内炎症性疾患、思春期、避妊、無月経、月経困難症(月経痛)、月経前症候群、神経性食欲不振症、早発閉経、更年期障害、子宮脱、骨粗しょう症

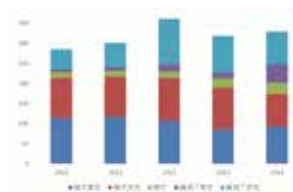
診療体制と治療実績

当科への婦人科がん患者さんの紹介が急速に増加している。従来からの標準的治療に加え、初期の子宮頸がんや子宮体がんに対しては低侵襲治療として鏡視下手術(腹腔鏡手術やロボット支援下手術: da Vinci®など)を積極的に行っている。一方、治療が難しいとされる再発がんに対

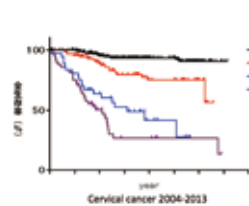
しては予後改善を目指し、化学療法だけでなく手術や分子標的治療を含めた集学的治療に取り組んでいる。

当科で治療を受けた子宮頸がん、子宮体がん、および卵巣がん患者さんの生存率は国内外の施設と比較してもきわめて良好である。

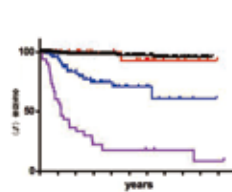
婦人科がん患者数の推移



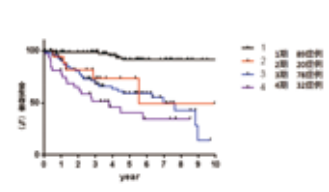
子宮頸がん患者の生存率



子宮体がん患者の生存率



卵巣がん患者の生存率



臨床研究の取り組み

医師主導治験をはじめ多様な研究を展開

医師主導治験として「再発・進行卵巣がんに対する抗PD-1抗体を用いた免疫療法の臨床試験」(2011~2015年3月)にて、一定の有効性を確認しさらに拡大した試験を検討している。この臨床試験は当科の腫瘍免疫という新しい視点からの基礎研究に基づくもので、難治性卵巣がんに対する画期的な治療法の開発をめざしている。

また、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)「腫瘍径2cm以下の子宮頸がんIB1期に対する準広汎子宮全摘術の非ランダム化検証的試験(JCOG1101)」を行っている。